

令和 6 年度 県立荃崎高等学校自己評価表

目指す学校像	社会人として求められる基礎学力及び生活習慣を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据えた職業観、勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。 1 生徒と教職員が共に学び、成長できる学校 2 生徒・保護者・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	基本的な生活習慣を身につけた人材 豊かな人間性を備えた人材 社会人としての教養と規範意識を身につけた人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による生徒の進路実現 ・習熟度に応じた選択科目の設定（基礎基本を目指す科目、発展的な考察を深める科目） ・興味・関心に応じた選択科目の設定（活動的な科目） ・学んだことを発表したり、試したりする場の設定（文化祭による発表や展示、資格試験や検定試験）	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	思いやりを持ち、自他を尊重して信頼を築こうとする生徒 基本的な生活習慣を身につけ、健康的な生活を心がける生徒 学校や社会の規範を守って日常生活ができる生徒 意欲的・主体的に学習や行事に取り組める生徒 自己実現に向けて日々努力する生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ①学習指導の工夫・改善により、生徒の基礎学力が向上し、学び直したいという意欲を持つ生徒が増加している。 ②基本的な生活習慣が身に付いていない規範意識に欠ける等の生徒は徐々に減りつつあり、落ち着いた学校生活を過ごせるようになった。 ③生徒の能力・適性等に応じて、四大・短大・専門学校進学から就職まで多様な進路実現に対応している。 ④三部制定時制単位制高等学校の特徴を広く周知したことにより、地域や近隣中学校における本校に対する評価が改善・向上しており、特別な支援を要する生徒に係る引き継ぎについても中学校の理解が進んだ。 ⑤教職員の時間外在校時間(月平均 14 時間 11 分、月平均 45 時間超過者の割合 3.8、月平均 80 時間超過者割合 2.1%)を把握することができた。 <課題> ①基礎的・基本的な学習内容の理解が十分でない生徒が少なくなく、生徒間の学力の差も大きいため、生徒の	1 基礎学力の向上を図り、生徒の授業満足度を高める	ア 授業を積極的に公開して学習指導の工夫・改善を図り、生徒が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 イ 少人数授業、T T 授業などの個の能力に応じた学習指導を実践し、BYOD(Bring Your Own Device)で持ち込まれた機器を効果的に活用しながら、生徒の学びの質を向上させる。 ウ 授業の中で自分の考えを書く時間を積極的に設け、文章力の向上を図る。 エ 授業内容に興味・関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。 オ 若手教員研究授業を実施し、研究協議を通じて授業改善を図る。加えて、教職員相互の授業見学を行う。	B
	2 学びの場としての環境作りに取り組む	ア ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業を展開する。 イ スクールカウンセラーやキャンパスエイドの支援を得て、教育相談機能を充実させ、望ましい人間関係を構築しながら、安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 通級指導の活用などにより、生徒の実生活や授業等での困り感の軽減を図る。 エ 図書館の整備により、生徒が読書や学習で利用しやすい環境を整える。	A
	3 基本的な生活習慣の確立を図る	ア 登下校指導や日常の声かけをとおして、服装・頭髮等の身だしなみを正し、挨拶の励行に努める。 イ 遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加や生徒指導上の問題行動による退学者数を減らす。	B

別紙様式 2 (高)

学び直しを丁寧に支援する。加えて、個に応じた発展的学びに対応する指導を充実させる。 ②人間関係を築くのが得意でない生徒が多く、教育相談機能等の効果的な運用により、豊かな人間関係づくりを支援する。 ③キャリア教育を充実させ、生徒の進路意識の向上を図るとともに、多様な進路実現に組織的に対応できるよう、就労支援も含めて体制を整える必要がある。 ④学校公開（授業公開等）や、地域や近隣中学校との交流を推進することにより、本校に対する理解を深め、連携を更に進める。 ⑤基準を超える超過勤務の解消に向けて、校務の精選や業務の割振りの見直しを行う。			4 生命や人権を大切にすることを育成する	ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、生徒相互の豊かな人間関係を築く。 イ いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を持たせる。	B
			5 進路指導の充実を図る	ア ロングホームルームや進路ガイダンスを充実させ、進路別見学会を実施し、進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。 イ 綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、進路指導の充実を図る。	A
			6 特別活動の充実と活性化を図る	ア 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、部活動の充実を図る。 イ HR活動を中心に、キャリア・パスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持たせる。	B
			7 フレックススクールとしての特徴を生かした教育活動の向上・推進を行う	ア 「茎崎プロジェクト2024」の計画と実行をする。 イ 茎崎高校としての「学びの質保証」を行う。	B
			8 教職員の資質能力の向上と働き方改革による校務の効率化を図り超過勤務時間の減少を図る	ア 校内研修の充実と研修機会の有効活用を図り、研修成果を生徒に還元し、教職員としてのスキルアップを図る。 イ 各分掌の主任・部長の責務と機能を発揮し、校務の可視化と適切な分業と連携のもとで校務の効率化を図る。 ウ 教科・年次・校務分掌に所属する職員が担う校務の適切な分担と協業により実務ノウハウの蓄積と伝承を図る。 エ 研修や校務の分担・協業による実務経験の機会を確保し、若手職員の育成を図る。	B
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	国語	充実した授業を展開する。	生徒の学習意欲を向上させるために生徒の実態に合った授業や評価(テストを含む)を行う。	B	B ・生徒の学習意欲を向上させるための実態把握や、それを支える評価を行う。 ・科目担当者間での共有を密にして、生徒の実態把握や教材の共有化を進め、授業の質を向上させる。
			科目担当者間での共有を密に行い、学習状況が不十分な生徒へのサポートを充実させる。	B	
			ICTを積極的に取り入れ、生徒が主体となるわかりやすい授業作りに努める。	B	
		基礎学力の向上を図る。	授業の取り組みや基礎力診断テスト等の試験結果も活用しながら、常用漢字やことわざ、平易な読解力等の基礎学力を向上させる。	A	
		学び直しの授業を通し、集中して学習に取り組む態度を育成するとともに、思考力・判断力・表現力を育むために必要な基礎的な学力を身に付けさせる。	B		
	生徒に寄り添った授業改善に取り組む。	12月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均3.5以上。	B		
	地歴・公民	基礎学力を向上させる	基礎的・基本的な事項を繰り返し学習する機会を設けることにより、授業での理解を確実なものとする。	B	B ・生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業づくりに努める必要がある。その際には、問いを工夫し、特に「なぜ?」と考えさせるような
			小テストや定期考査等を通して、知識を定着させることにより、基礎学力の向上を図る。	B	
		授業満足度を高める	生徒の興味関心に応じて、授業担当者が授業プリントを作成したり、視聴覚教材を活用したりすることにより、生徒の授業満足度を高める。（【項目5】できなかったことができるようになった。）	B	

別紙様式 2 (高)

			作文によるまとめ学習により、学習のまとめに加え自分の考えを広げ深めるきっかけとする。まとめ学習の助言をすることで、生徒の授業満足度を高める。 （【項目 6】自分の考えを広げ、深めることができた。）	B		課題を提示できるように、教員が研究を深めていきたい。 ・小テストを定期的実施したり、生徒が調べたことを発表する機会を設けたり、アウトプットを充実させるように心がけていきたい。 ・個に応じたきめ細かい指導をしていきたいが、人員の都合によりティームティーチングや習熟度別学習が実施できない。
教科指導	数学	基礎学力の向上を図る。	習熟度別授業を実施し、「高校生のための学びの基礎診断」も活用しながら、個々の能力に応じて小・中学校の復習から高校数学の応用問題まで幅広く取り扱う。	D	B	「基礎学力の向上を図る」については、GTZを見ると、 (1回目) ≤ (2回目) となった生徒の割合は 27%だった (A: 70%以上、B: 50%以上、C: 30%以上、D: 30%未満)。 - 授業を進める一方で、基礎力を確かめる習慣をつけていくことが課題である。たとえば、小テストや模試の傍用問題を使つての復習をする。 「生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る」については、生徒への授業アンケートでの割合を基準に評価すると、「1とてもできた」「2ややできた」の割合が約 80%だった (A: 全体の 70%以上かつ「1とてもできた」の割合が 35%以上、B: 「1とてもできた」「2ややできた」の割合が全体の 70%以上、C: 「1とてもできた」「2ややできた」の割合が全体の 50%以上、D: 「1とてもできた」「2ややできた」の割合が全体の 50%未満)。 比較的高い評価は得ているが、生徒の特性も多様になってきていて、心をとらえきれずにあきらめさせてしまうこともあった。様々な引き出しでもって、学習意欲の向上に努める。
		生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	興味・関心を高めるような学習内容や教材を工夫する。	A		
			関心の高い生徒に対し、個別指導や課題等により、更なる意欲の向上に努める。	B		
教科	理科	思考力・表現力の向上を図る。	ティームティーチング指導を通して、個に応じたきめ細かな指導を行う。	A	A	思考したことを表現する活動については、苦手意識を抱く生徒が多
			理科の現象に関して思考を巡らせ、考えたことを表現できるように言語活動の充実を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

指導				中学理科の内容との関連を意識させ、系統的な知識が身につくような授業を展開する。	A		いため、適切な支援の方法を検討する。 ・前年度と比較して、授業満足度（KPI）が高くなった。生徒が興味関心をもって授業に取り組めるように次年度も工夫していく。 ・今年度に引き続き、45 分の授業時間で効果的な実習を行う方法を模索し、教科で共有していく。	
			生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	生徒の実態に応じた授業内容・授業方法を精選・工夫する。	A			
				日常生活と結びつく身近なトピックを授業に取り入れ、その際に視聴覚教材や ICT などを効果的に活用する。	A			
				観察・実験を積極的に授業に取り入れる。	B			
保健体育	体育	生徒の実態を把握し、運動量の確保と生涯を通じて取り組むことができるスポーツを見つけさせ、生徒の授業満足度を高める。	生徒の健康状態、体力、嗜好を把握し、クラスやこの実態に応じて運動種目やルールを設定することで、主体的に運動に取り組む環境づくりに務める。また、年6種目以上の競技に触れさせることを目指し、その中で生徒が自ら動き、学ぶことの楽しさや達成感を覚えるよう授業を実施する。生徒満足度（KPI）「授業を通して、ルールを理解するとともに、できなかった（分からなかった）ことができる（分かる）ようになった」70%	A	A	・体育施設の破損や悪天候（猛暑など）などによる授業への影響を減らせるような工夫。 ・ICT 活用の工夫。 ・TT の効果的な活用。		
		運動の質の向上を図る。	個の実態に応じた目標を設定し、改善点等を視覚的に分かりやすく提示するとともに、適切なアドバイスをを行う。Teaching（KPI）生徒による授業評価「先生は授業の目標を分かりやすく設定している。」50%。	A				
	保健	正しい意思決定・行動選択ができる能力と保健の知識を身に付けさせる。	社会で起こっている具体的な事例をあげながら学習指導を行う。また、自ら必要な情報を手に入れる方法や手段を見つけられるようにするために、ICT を活用する機会を設定し、主体的に取り組む環境づくりを行う。年4回の定期考査の実施で知識の定着具合を測る。知識の定着（KPI）4回の試験合計÷4 ≥60 点。	A	A			
		学ぶ姿勢を身に付けさせる。	望ましい授業態度が身に付くよう、指導するとともに、自ら調べたり、視覚的に分かりやすい情報を得られたりするよう、ICT を活用する機会を設定し、主体的に取り組む環境づくりを行う。また、毎学期2回の課題提出を徹底させる。	B				
	教科指導	芸術	音楽	芸術を愛好する心情を育てる。	芸術的な活動を通して感性を高め、実生活においても芸術を鑑賞する心情を育成する。自主的に芸術を楽しむ態度を育てる。	A	A	・課題の提出率は95%程となった。昼休みや放課後に時間を設けたら参加する生徒も多かったので、今後も機会を見て実施していきたい。（美術） ・授業中に楽器を触ろうとしない生徒がいたが、年次職員にも付き添ってもらいながら補講の時間を設けた。年次職員と連携して生徒に働きかけていきたい。（音楽）
				基礎技術の確実な定着を図る。	実習においては個々のレベルに応じた丁寧な指導を心がける。	A		
			生徒に寄り添った授業改善に取り組む。	12月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均3.2以上。	A			
美術		美術への興味、関心を高める。	日常と関連させた課題設定と導入を行い、題材への興味をもたせ、授業課題の提出を100%できるように意識を高める。	B	A			
	つくる喜びを味わわせる。	個別指導を通して生徒一人一人が表現したい内容を理解し、個に合わせた技術支援を行う。	A					
	生徒に寄り添った授業改善に取り組む。	12月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均3.2以上。	A					
	書道	小筆、大筆の特徴に合わせた書に取り組ませる。	小筆、大筆の特徴に合わせた書の表現を確認させて、創作の意欲を持たせる。臨書から漢字仮名交じり文、実用の書へ発展させる。	A	A			
		作品を完成させる喜びを味わわせる。	文化祭、学年末に合わせ、作品づくりを目指す。生徒の希望に合わせ、色紙や篆刻を試みる。	A				

別紙様式 2 (高)

		生徒に寄り添った授業改善に取り組む。	12 月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均 3.2 以上。	A		
教科指導	英語	基礎学力の向上を図る。	「コミュニケーション英語Ⅰ」や「基礎から学ぶ英語」の授業等を通して、中学英語の既習事項との関連性を意識させながら基礎的・基本的な「読むこと」「書くこと」の能力の向上を図る。	A	A	・言語活動による「話す」「書く」能力、英語を使おうとする意識の向上。 ・多様な生徒の学習能力向上を図る中で、TT の授業でも学びを支えるのが難しい特性の生徒への対応。 ・ICT の効率的な活用。 ・観点別評価と一体化した指導及び評価方法。
			授業を通して、日常生活に結びつく基礎的・基本的な語彙の数を増やしつつ、語彙運用能力の向上を図る。	A		
			観点別評価の工夫を通して、評価と一体化した指導を行い、基礎学力の向上を図る。	B		
			教科書の英文音読練習を繰り返し行うことで、英文に触れた際に自分自身で正しい発音やイントネーションを再生し内容を理解する能力の向上を図る。	B		
		音声面を重視しつつバランスの取れた 4 技能の向上を目指す。	ALT と連携のとれたティームティーチング授業で生きた英語に直接触れさせ、「聞くこと」「話すこと(発表、やり取り)」の能力の向上を図る。	A		
			ICT 等を活用し、教科書に出てくる文法や重要な表現を、具体的な言語使用場面と結びつけて指導をする。	A		
		授業満足度を向上させる。	授業を通して、生徒の取り組みや反応を見極めつつ、定期的に授業に対するアンケートなどを行うことで、7 割以上の生徒が達成感を得られる授業展開を目指す。	A		
教科指導	家庭	学習に取り組む姿勢を育成する。	始業・終了時の挨拶・服装指導を徹底させる。学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付ける。	B	B	・学習に取り組む姿勢として授業態度と課題提出率 A90%B70%C50% ・生徒一人一人の学習意欲の向上と基礎学力の定着。技術の習得のさらなる向上を目指す。知識・技術 A90%B70%C50% ・生徒一人一人の学習意欲の向上と基礎学力の定着ができた。さらに向上を目指したい
		協調性を持ち、基礎学力を身に付させ、各自が基礎学力を活用できる力をつける。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組ませ、日常生活が改善できる知識・技術を指導する。12 月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均 3.2 以上。	B		
教科指導	情報	パソコン操作技術の向上を図る。	Word や Excel の基本操作を習得させる。 PowerPoint の基本操作を習得させる。 プログラミングの基本を習得させる。 B 以上 生徒による授業評価「この授業を通して、できなかった(分からなかった)ことができる(わかる)ようになった」 60%	A	B	・生徒に毎時間の提出物を求め、ABC (321) 3 段階で評価する。 全生徒の全ての課題の平均値が 2.3 以上が A、2.0 以上が B、1.7 以上が C、1.7 未満が D ・Life is tech のオンライン教材を使い情報モラルに関する単元の確認テストの全生徒の達成率の平均が、80%以上が A、60%以上が B 40%以上が C、40%未満が D
		情報社会について学び、情報モラルの向上を図る。	携帯電話やスマートフォンなど身近な情報機器を教材として取り上げ、情報化が社会に及ぼす影響や課題についての理解を深めさせ、正しい情報モラルが身に付く授業を展開する。 B 以上 生徒による授業評価「この授業を通して、自分の考えを広げ、深めることができた」 70%	B		
教科指導	総合	自己管理能力の育成	生徒の興味関心に応じた探究活動や体験活動を通して、学校生活への適応を促す。欠席の多い生徒の割合を減少させる。	B	B	・本年度入学生の不登校経験者は例年より少なく全体の 30.3%であったため、その目標値を 25%程度に減少させることとした。中間値ではあるが 18.9%であった。

別紙様式 2 (高)

		自己肯定感・有用感の育成	内発的動機づけにつながる自己決定の条件を整え、生徒が抱える様々な問題を解消できるように支援し、前向きな学校生活が送れるように教育環境を整える。ポジティブに生活できている割合を高める。	C		・ネガティブ思考の生徒が多く入学するため、CANDO リストのアンケートにより、ポジティブに生活できている割合が 80%以上（中間時：60%以上）となることを目標としている。中間値では、ポジティブに生活している割合は、52.4%であった。1 月の調査については集計中であるが、大きな変化は見られない。 ・日本や中国の文化についての理解については、満足度にばらつきがあるものの、通年での社会人教師の授業に戸惑いは見られない。 ・来年度についても、社会に出す指導を継続拡充していく。
		日本や中国の文化について理解を深めさせる。	日本の伝統芸能や郷土の文化に触れることや、中国の言語と文化について学ぶことを通して、より広い視野を身に付けさせる。加えて、社会人受講生徒との学びを通して、社会性を高める。	B		
教科指導	商業	ビジネスに必要な経済に関する仕組みや概念について理解させるとともに、主体的に考える能力と態度を育てる。	単なる知識の伝達のような授業にならないよう、調べ学習を取り入れ、生徒の主体性を重視した学習になるよう心掛ける。併せて、調べた内容の報告活動を通して、思考・判断・表現力の向上を図っていく。	A	A	・来年度は科目が一新されるので新たな目標や方策を検討していく必要がある。
		実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力の育成を目指す。	簿記の学習を通して、読解力や正確な計算力の育成に努める。1 月に実施される簿記実務検定 3 級に半分以上の生徒が受験を希望するように、生徒の学習に対する意識を向上させる。	A		
教科指導	家庭（専門）	学習に取り組む姿勢を育成する	始業・終了時の挨拶・服装指導を徹底させる。学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付ける。	B	B	・学習に取り組む姿勢として授業態度と課題提出率 A90%B70%C50% ・生徒一人一人の学習意欲の向上と基礎学力の定着。技術の習得のさらなる向上を目指す。知識・技術 A90%B70%C50% ・意識改革、学びを生活に生かす実践力が身についた。さらにより発展的な内容も取り入れたい。
		協調性を持ち、基礎学力を身に付させ、各自が基礎学力を活用できる力をつける。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組ませ、日常生活が改善できる知識・技術を指導する。12 月実施「生徒による授業評価」の「授業満足度」項目における評価平均 3.2 以上。	B		
教務		1. 多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図りながら、社会を生き抜く力を育成する。	教員間での授業参観を通して、授業方法を互いに研究し、ユニバーサルデザインの考えを取り入れるなど授業改善を図る。	C	B	・リアルタイムでの遠隔授業にも効果的に対応できる授業改善に向けて、授業改善推進チームを中心として引き続き、授業方法を研究していく。 ・学校案内の方法についても、工夫
		2. 生徒の興味・関心を引き出し、学びに向かう	授業改善推進チームを中心として、教科研修を行い、ユニバーサルデザインの考えを取り入れるなど授業改善を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

	ためのモチベーションを高める授業・教育活動。				改善に努めていく。 1. 授業満足度 (KPI) : 「授業内容に興味・関心を持ち、自ら進んで学習に取り組むことができる。」 A80%以上 B60%以上 C50%以上 D40% 2. Teaching と Coaching 評価 A : 平均 3.5 以上 B : 3.1 以上 C2.7%以上 D : 2.5 未満 3. 保護者アンケートによる満足度 A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満 4. 年度末未履修者が全校生徒の A : 10%未満 B : 20%未満 C : 30%未満 D : 30%以上 5. 年度末未修得者が全校生徒の A : 10%未満 B : 20%未満 C : 30%未満 D : 30%以上
	3. フレックススクールの広報活動の充実を図る。	学校案内パンフレットやホームページを通して、本校の現状を発信する。	B		
	4. 欠課時数超過による科目未履修の生徒の防止。	段階指導の整備を行い、各年次と連携し、生徒の支援に努める。	A		
	5. 成績不振による科目単位未修得の生徒の防止。	段階別指導の整備を行い、各教科・各年次と連携し、生徒の指導と支援に努める。	A		
進路指導部	ICTの活用を促進し、事務作業に係る時間・労力を削減する。	Google form を用いて進路希望調査の実施・集計を行う。	A	A	- ICT を用いてアンケートや求人票処理を行う。A90%B70%C50% - 望ましい職業観を育成するため周辺事業所、職業安定所と連携し進路ガイダンス、進路講演会、進路見学会を開催する。A90%B70%C50% - 各年次で入学から卒業まで一貫した進路指導ができるように業務が円滑にできるよう職員間で連携し、資料等の整理をする。若手職員が今後に通ずる進路指導の知識・スキルを身につけ、十分に力を発揮できるよう留意する。A90%B70%C50% - 生徒の個に応じた進路指導をする。A90%B70%C50% - 就労支援の充実を図るために特別支援学校や関係機関と連携し対応する。A90%B70%C50% - 夏休み前に、卒業年次の調査書の確認をすることが求められる。年間を通した進路活動の動きを生徒がより理解できるようにしたい。
		entli for school のサービスを利用し、求人票処理の効率化を図る。	A		
	望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	大学・専門学校等の担当者や周辺事業所・職業安定所・地域福祉課等と連携し、進路ガイダンス・進路講演会・進路見学会を企画する。	A		
		職業体験を推奨し、様々な職種への理解を生徒に促すとともに、社会人として相応しい資質を育む。	B		
	組織的な指導体制を構築する。	進路指導部会の場を有効に活用し、各年次との連携を密にする。部会を年間15回程度開く。生徒の入学から卒業までの一貫した指導計画を全年次に浸透させ、各業務の運営が円滑になされるようにする。また、生徒情報の他、指導法やトラブル対応方法などの知見を共有する。	A		
		部会資料および職員会議資料の内容・形式を整え、部の方針と業務について、職場全体の理解と協力が得られるよう努める。あわせて組織の運営が今後円滑に引き継がれるよう準備する。	B		
	個に応じた指導の充実を図るために生徒・保護者の実情に即した進路情報の提供を図る。	進路ガイダンスや進路見学会において多様な講座・見学先を提供し、生徒の進路希望に沿った意識づけを図ることができるようにする。	A		
		生徒が自ら進路指導室に足を運ぶ機会を増やすよう努め、コミュニケーションを促進する。	B		
		P T A総会に合わせ、『進路の手引き』を発行し、卒業年次対象の進路講演会を実施する。	A		
		保護者面談の機会を利用して、1年次、2年次、3・4年次就職希望者、3・4年次進学希望者それぞれに向けた文書を作成し、各家庭に配布する。生徒の進路活動への理解と協力を求める。特に進学における資金計画の重要性について啓発することに意を注ぎたい。	A		

別紙様式 2 (高)

	就労支援の充実を図る。	特別支援学校や関係機関との連携を密にし、保護者・生徒の要望・実情に合った情報提供を行う。	A		生徒の希望に沿った進路活動を留意して指導できるようにスキルアップにつながる年次連携をする。
		2年次での職業体験を通して、個々の特性と職場での適合を図る一助とする。	A		
		卒業生への職場訪問をし、在校生への就職指導へ活かしていく。新社会人応援ツアーを行う。	A		
生徒指導	生徒指導体制の一層の充実を図り、基本的生活習慣の確立に努める。	挨拶によるコミュニケーション能力の向上に伴う、良好な人間関係の構築を図るため、登校指導の体制を充実させる。	A	B	・内規の改正。 ・生徒指導への職員の共通理解、情報共有。 ・特別指導時の年次との連携、体制作り。 ・特別指導に関連する部会には担任も同席し、確実な情報共有を行う。 ・いじめ防止対策会議も同様。 ・休み時間、下校後の巡視の徹底。
		いじめの未然防止、早期発見のためすべての休み時間を生徒指導主事及び係分担した全教員で生徒を見守る。発見した場合、被害者の安心安全を確保する措置を速やかに講じ、関係機関との連携を図りながら適切に対応する。	A		
		服装頭髪指導やマナー指導の目的を職員間で共通理解し、社会人としての素養を育成する。	B		
		交通安全指導・登下校校指導を行い、生徒の危機管理意識を醸成し、事故の未然防止に努める。	B		
		校則を基準にしながら、個々の事情に応じた指導も個別に行う。	A		
		定期的に生徒指導部会を実施する他、必要に応じて臨時での部会を実施して情報を共有する。	A		
		職員朝会を通して、生徒指導部会の情報並びに適宜必要な情報を全職員に周知し、共通理解の上で、学校全体として同じ方向性をもった指導を行う。	B		
	生徒指導に関する教員間の共通理解を深める。	生徒指導相談員の助言を有効活用して、日々の指導に活かす。	A		
		校内研修会を通して生徒指導に関する知識・理解を深め、個々の職員の指導力向上を図る。	B		
特別活動	生徒が主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	生徒アンケートを実施し、それをもとに公開定例会議を開催することで、広く生徒の意見を取り入れた生徒会活動を促進する。	B	B	・キャリアパスポートを効果的に活用できるような体制を整える必要がある。 ・生徒主体で活動できるような場の提供。 ・各種委員会活動の精査。
	生徒会が中心となり、部活動・委員会活動・HR活動の活性化を図る。	生徒会主催で部活動、各種委員会、HR活動と連携した会議や行事を計画・実施する。	A		
	よりよい人間関係の形成並びに集団生活の構築や、社会参画並びに自己実現に繋がるような行事を企画運営する。	各部の生徒が偏りなく活動できるように、生徒や学校の実態に合った行事の実施方法を検討する。	A		
		各行事においてキャリアパスポートを活用し、教科学習・教科外学習・校外活動の3つの視点で学びを振り返るとともに、将来への展望や見通しを持たせる。	C		
保健厚生	心身の健康の保持増進を図る。	各種検診を必ず受診するよう呼びかけ、自分の健康を意識させる。未受診者5%未満を目指す。	A	B	・美化委員の活動については保健厚生部で実施している花壇整備と結びつけて、計画的かつ定期的に活動を行う。 ・安全点検の実施日を周知徹底する。 ・生徒とスクールカウンセラーを円滑に繋げられるよう、教育相談体制をさらに整える。 ・今年度始まった外国籍支援事業を充実させ、さらに日本語教育を推進する。
		生徒が安心・快適に学校生活がおくれるように、救急処置・救急体制に万全を期すとともに職員救命講習研修会を実施する。	B		
		教育相談・健康相談の充実に努めるとともに、必要な場合は、関係専門機関と連携して対応する。	B		
	保健教育を充実させる。	性教育講演会を実施し、生徒の問題行動の防止に努める。事後アンケートを実施する。	A		
		美化委員・保健委員会活動において、生徒の活動の場を多く作る。	B		
		保健室に配置する図書・資料・掲示物の充実を図り、生徒が健康・安全の意識を高めるために役立てる。	B		
	学習環境を整え、環境美化・整備を行う。	学校安全の確保に努め、安全点検を月1回行い、破損箇所・危険箇所について事務室と連携して迅速に対応する。	B		
		ゴミの散らかし防止を呼びかけるとともに、分別処理を徹底させる。	B		
		快適な学習環境を維持するため、生徒職員一体となって清掃・環境美化に取り組む。	B		
	個別支援の充実を図る。	学校内における情報の引き継ぎを行い、校内支援体制を充実させる。	B		
		特別支援教育巡回相談や校内研修会を年1回以上実施し、支援の方法を学ぶ機会を増やす。参加率7割。	A		
		スクールカウンセラー、キャンパスエイド、スクールソーシャルワーカーと適切に連携を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

		特別支援教育コーディネーターと協力し、生徒に関する情報や授業観察等から気になる生徒の状況を把握する。必要に応じて、生徒の生活上の困難が改善・克服されるよう通級指導を充実させる。	B		
渉外	P T A 活動への理解と参加率の向上を図る。	合格者説明会、入学式等において、P T A 活動への参加と協力を呼びかける。	A	A	・本部役員の継続的な勧誘方法。 ・PTA 活動及び規約の見直し。 ・同窓会の活動及び規約の見直し。
		本部役員との連携を密にし、P T A 行事や各種委員会運営の円滑化を図る。	A		
		参加を強いるような運営方法でなく、自主的な参加を呼びかける。	A		
	P T A 活動の活性化を図る。	文化祭、研修会等での活動を通して、会員間及び教員との親睦を深め、P T A 活動のさらなる活性化を図る。	B	A	
		広報委員会では、会員の負担軽減に努め、委員の意見をできる限り取り入れる。	A		
		生徒指導委員会では、会員が都合をつけやすいよう少なくとも 1 ヶ月以上前に実施案内をすることを持って参加者増加を図る。	A		
情報メディア部	①教職員用 ICT の保守管理に努める。	電子黒板等、教室での教育用情報機器の利用環境の整備を図る。	A	A	①教職員用 ICT の保守管理に努める。 ・煩雑になっている共有フォルダを活用しやすくするための整理。 ・活用していない教員用ノート PC の活用方法を考える。 ②生徒用 ICT の保守管理に努める。 ・生徒貸し出し用端末の保守、点検。 ・生徒の教育情報アカウントの管理。 ・授業で活用できるアプリケーションや ICT 機器に関する情報共有を積極的に行う。 ③オンライン授業における学習環境の整備に努める。 ・今年度から始まった遠隔授業の取り組みを振り返り、よりよい体制づくりを行う。 ④生徒の図書室の利用促進に努める。 ⑤図書室内の環境整備に努める。 ・今年度に引き続き図書館内の環境整備、資料整備に取り組む。
		教育活動に必要な ICT に関するスキルを身につけるための研修を行う。	B		
		日常業務が円滑に実施できるよう、日々のセキュリティ管理とトラブル対応を努める。	A		
		教育活動に必要な機器の導入・整備・更新を適切に行う。	A		
		校内ネットワーク環境を整備し、適切な保守管理に努める。	A		
	②生徒用 ICT の保守管理に努める。	学校で保有する Chromebook、iPad の定期的な保守・点検を行う。	B		
		教育用必要なソフトウェアの調査・研究、および導入・利用を図る。	B		
		アプリの利用法や活用場面を開発し、職員の ICT 活用能力を高めることにより、生徒の授業満足度を高める。	C		
		快適なネットワーク環境の整備を行い、必要な保守点検を行う。	A		
		定期的なソフトウェアの更新に努め、日常利用上のトラブルの減少を図る。	A		
	③オンライン授業における学習環境の整備に努める。	天候不順や自然災害の発生など、様々な場面に対応できるよう、校内でのオンラインによる指導体制を整備する。	B		
		必要時にオンライン授業が実施できるよう、ICT に関する事前指導を日ごろから行う。	B		
		教職員がオンライン授業を実施する際、必要に応じて技術サポートを行う。	A		
	④生徒の図書室の利用促進に努める。	図書室内の環境を日ごろから整備し、誰もが心を落ち着かせられる居心地のよい図書館をつくる。	A		
		各教科と図書館を繋ぎ、授業における図書館活用を促進させる。	A		
		図書だよりや新着図書紹介を年に複数回発行し、図書や読書に親しむ態度を育成する。	B		
		図書室内のレイアウトなどを見直し、利用者の利便性を高める。	A		
	⑤図書室内の環境整備に努める。	書籍・雑誌等の情報収集に努めて、適切に図書選定を行い、蔵書を充実させる。	A		
		廃棄図書の選定基準を明確にし、蔵書の整理を行う。	A		
		日本十進分類法に基づく、蔵書管理の徹底に努める。	A		

別紙様式 2 (高)

一年次	基本的生活習慣の確立を図る。	登校指導時の声掛け、休み時間の巡回、生徒面談などを通して状況把握及び生徒理解に努め、問題への早期対応を心掛ける。	A	B	- 基本的生活習慣の確立については、教員が常に生徒の近くにおり、相談しやすい環境を作ることで問題行動を防ぐ。服装頭髪検査の件数で評価する。 A 指導された生徒が 5%以下、B 指導された生徒が 10%以下、C 指導された生徒が 15%以下 - 服装頭髪検査において、問題のあった生徒は全体の 7%ほどであった。指導後、全生徒改善されている。染髪した者が 4 名いた。長期休業中に染めることがほとんどであったため、面談時に保護者への協力を仰ぐ必要がある。 - 学習意欲を高め、基礎学力の向上を図るについては、LHR の時間を用いて月 1 回の集会を開くことや講演、グループワークを行うことで学習習慣を確立させる。家庭学習調査を行い、家庭学習時間 1 時間以上の割合が A70%以上、B50%以上、C30%以上 11 月基礎学力診断テストにおける家庭学習調査で、家庭学習時間が 1 時間以上の生徒が 26%、大学進学希望者では 60%であった。模擬試験の受験者が少なく、家庭学習や進学を意識した指導がし切れていなかった。明確な目標設定と、受験に必要なことを課外等で伝えていかなければならない。 - 進路実現のための意識の向上については、進路見学会や総合の時間を使って進路活動を行う。年度末時点での進路希望状況で評価する。具体的な進路希望が定められた生徒が A80%以上、B70%以上、C60%以上 11 月基礎学力診断テストにおける調査で、進路希望が明確な者が 71%
		家庭との連携を密にし、服装・頭髪指導等の一貫性のある指導を通して規範意識を高める。	A		
	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	学級においても ICT 端末を積極的・効果的に活用することで、生徒が学習に取り組みやすい環境をつくるとともに、授業でも BYOD をスムーズに活用できるようにすることで、学力向上につなげる。	A		
		外部模試を 2 回実施し、基礎学力の定着度合いを測定する。また、学習意欲の喚起を図る。 基礎学力の向上 (KPI) (2 回目の模試) ÷ (1 回目の模試) > 1	B		
		家庭学習の習慣を確立し、基礎学力を高めるとともに進学希望者への進学意識を高める。	C		
	進路実現のための意識の向上を図る。	学校行事や総合的な探究の時間の活動の中で、生徒の自己理解を深め、進路への関心を高められるようにする。	B		

別紙様式 2 (高)

					となった。4月63%からやや増加した。進路見学会や進路ガイダンスを通して固まってきた生徒も増えてきたため、進路先と触れる機会を増やす必要がある。
二年次	基本的生活習慣を定着させる。	登校指導、休み時間、生徒面談などをおして状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期対応を心掛ける。	B	B	・社会人になる自覚を高めさせ、生徒の自立心を育成する。 ・卒業に向け、生徒一人一人にとってよりよい進路を実現させる。 ・自ら進んで学習に取り組む態度を育成する。
		家庭と連携をし、頭髪や服装などの規範意識を高めながら、社会人として必要となる態度を育てる。	B		
	多様な価値観を育み、自己理解、他者理解ができるようになる。	総合的探究の時間やLHRを通して、社会性を育み、豊かな人間を育む。	B		
		授業や学校行事などを通して、コミュニケーション能力を育て、良好な人間関係を築けるようにする。	A		
	学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む態度を育てる。	すべての生徒が安心して落ち着いた環境で授業を受けられるように授業態度の指導を徹底する。	B		
		書写検定、英語検定、漢字検定、数学検定などの資格取得を目指し、意欲的に学習に取り組む意識を育て、生徒が一つ以上の資格を取得する。	A		
		家庭学習時間調査に基づく学習習慣の醸成	B		
三年次	基本的生活習慣の定着とともに社会生活に必要な素養を身につけさせ、社会人となる自覚を高める。	外部の講演会を3回実施し、社会生活に向けた礼儀やビジネスマナーを身につけさせ、社会で活躍できる生徒を育成する。	A	B	・欠席・遅刻が改善された生徒も見られたが、逆の生徒もあり、かつ、1/4、1/5指導する生徒は増加している。 ・欠席状況が悪化している生徒への対応を模索する必要がある。 ・進路活動に来年活動する、現在活動中と答えた生徒を含めると80%以上の生徒が概ね取り組めたと答えている。引き続き来年度4年次生への指導を継続したい。
		生徒面談や家庭との連携を密にし、状況把握や生徒理解に努め、問題の早期対応を徹底する。	B		
		頭髪や服装指導を月1回実施し、規範意識を高め、社会人となる意識や態度を育てる。	B		
	自主的・主体的に学習に取り組む態度を身に付け、進路実現に向け積極的に行動する力を養わせる。	総合的な探究の時間を活用し、それぞれの課題に対して自主的・主体的に解決できる能力を身につけさせる。	B		
		生徒・保護者・教員が正確に情報を共有しながら、生徒の進路実現に向けてより良い選択ができるようサポートする。	A		
四年次	基本的生活習慣の定着とともに社会生活に必要な素養を身につけさせ、社会人となる自覚を高める。	遅刻や欠席に対する指導を継続し、各生徒が健康的な生活リズムを確立できるよう促す。面談や電話連絡等を通じて生徒や家庭との連携を密にし、生徒の状況把握や指導改善に生かす。また、これまで以上に社会の目を意識し、身だしなみや、挨拶・言葉遣いといったマナーの向上に努める。毎月1回の頭髪・服装指導を実施する。	A	A	・欠席日数前年度比により評。A20%減、B10%減、C増減なし、D増加→30%減(12月現在) ・授業満足度により評価。A80%、B60%、C40%、D20% →授業アンケートの肯定的解答率100% ・次年度への課題：欠席や遅刻により授業の欠課時数が増える生徒もいるため、電話連絡や家庭訪問等による連携を密に行っていく必要がある。
	生徒が学習を通して自己肯定感を高められるようにすることで、自主的・主体的に学習に取り組む態度を身に付け、進路実現を図れるようにする。	「分かった」「できた」を感じられる機会を増やすことで授業満足度を高め、生徒一人ひとりが自己肯定感を高められるようにする。そのために、担任、年次職員と各授業担当者が密に連携を図り、チームとしてサポートしていくことができるような体制を構築する。	A		

※ 評価規準： A 十分達成できた B 概ね達成できた C やや不十分である D 不十分である